

こどもから意見を聴く取り組みについて

「こども基本法」において、こどもの意見表明機会の確保・こどもの意見の尊重が基本理念として掲げられる中、本市のこども・子育て支援の方向性を定める「神戸っ子 すこやかプラン 2029」の策定過程においても、こどもをはじめ、子育て当事者等の意見を聴き、計画に取り入れることで、こどもを中心とした施策につなげることを念頭に以下のことに取り組んだ。

1. こどもへの意見聴取

(1) 子ども・子育て支援事業に係る基礎調査

内 容：放課後や休みの日の過ごし方を調査するとともに、自由記述アンケートを実施。

実施期間：2023年12月20日～2024年1月10日

対 象：小学校高学年

調査回収：小学校高学年：10,000通配布、2,278通（22.8%）回収

(2) こどもアンケート

内 容：こどもが意見を表明することについての感じ方や安心して過ごすことができる居場所などについて実態を把握するため実施。

実施期間：2024年2月28日～4月12日

対 象：小学校高学年、中学生、高校生世代

調査回収：小学生：4,000通配布、1,305通（32.6%）回収

中高生世代：8,000通配布、1,789通（22.4%）回収

(3) 小学生から直接意見を聴くワークショップ

内 容：こどもアンケートの自由意見で得た、実際のこどもの声をもとにした「聞いてほしいこと」や「悩み」に対し、神戸の資源カードを用いて解決策を考えるカードゲームを実施。ゲームを通じて小学1～6年生約500人から率直な意見を集めた。

実施場所：児童館、こども食堂など18施設

実施期間：2024年7～8月

(4) 中高生から直接意見を聴くワークショップ

内 容：「自分（こども）の意見を取り入れたまちづくり、自分（こども）が主役なまちとはどんなまちなのか？」などをテーマに、10グループ約200人から意見を集めた。

場 所：青少年施設など6施設

実施期間：2024年8～9月

<聞いてカードの例>

- ・公園に新しい遊具がほしい
- ・相談できる人、そばにいてくれる人がほしい

<資源カードの例>



(5) 放課後の過ごし方にかかるヒアリング調査

内 容：次期プランに反映させることを目的に、のびのびひろばや学童保育を利用する児童から、放課後の過ごし方についての希望の聞き取りを実施。

対 象：小学生 322 人（8 か所を訪問）

実施期間：2024 年 7 月 9～17 日

(6) 社会的養育にかかるアンケート調査・個別ヒアリング

内 容：こどもの権利擁護の取り組みや意見聴取の仕組みの認知状況、普段の生活、気持ちの受容、意見表明、里親制度についてアンケートを実施。あわせて、施設種別や性別でグループに分け、こどもたちの普段の生活の様子から聞き取りを始めるなど、意見が出やすい雰囲気づくりや実施場所を工夫して聞き取りを実施。

対 象：児童養護施設、児童心理治療施設、児童自立支援施設、自立援助ホーム、母子生活支援施設、里親家庭・ファミリーホームで暮らしている小学 1 年生以上の児童

実施期間：2024 年 6～9 月

2. 子育て当事者等への意見聴取

○子ども・子育て支援事業に係る基礎調査

子ども・子育て支援法に基づく次期神戸市子ども・子育て支援事業計画を策定するにあたり、就学前児童および小学生の保護者を対象に、子ども・子育て支援事業の利用希望見込みにあわせて自由記述アンケートを実施。

○検証アンケート

現計画全体の成果等について、利用者側の視点に立った点検・評価を行うため、3 歳児健診を受診する児童の保護者および施設利用者を対象に、個別事業・施策・各施設の「認知度、利用度、満足度」の調査とあわせて自由記述アンケートを実施。

○子育て支援施策へのアンケート

幼稚園 PTA や保育園・こども園職員、児童館運営委員会（地域団体、保護者等）、大学などを対象に、集会の場におもむいて市の子育て支援施策を説明したうえで、今後の取り組みに対するアンケートを実施

3. その他 具体の事業に対する意見聴取の取り組み等

○「高校生から見た『神戸のまちで感じること』」（市長との対話フォーラム）

（高校生対象：2024 年 3 月 29 日、8 月 7 日）

○「外で遊んでる？市長と教育長に聞きたいこと、聞いてほしいこと」

（小学 5・6 年生対象：2024 年 8 月 19 日）

○「神戸で叶えたい将来の夢について」（市長・教育長との対話フォーラム）

（中学生対象：2024 年 8 月 24 日）

○GIGA 端末を活用したこども（市立小中学生）の意見聴取とフィードバック

中学校給食、バスケットゴール倍増計画、長田区の将来像、放課後の過ごし方などについてアンケートを実施（2024 年 5 月～）

○次期基本構想のための意見聴取

神戸の魅力や未来などをテーマに、アンケートやワークショップを各地で実施

- ・アンケート（第 1 弾 16,433 人回答、第 2 弾 8,553 人回答）
- ・ワークショップ（オンライン含む 12 回開催、249 人参加）

出た意見と次期計画への反映

出た意見（主なもの）

- ・障がい者のことを知り、どのように手助けすると良いかなど少しでも知ってもらいたい



- ・ヤングケアラーの人などが集まれ、話を楽しんだりお互いの関係性を強化できたりする場を提供してあげられたら良いな



柱3について

- ・「自己実現を支える」は難しい。「こどもに“任せてみる”」の方が良い。「こどもの“やってみたい”を支える」はより良いと思う
- ・「こどもが担う」はどうか
- ・「こどもを主体にした」より「こどもを主役にした」の方が分かりやすくて良い



次期計画

【柱2】

発達が気になるこども・障がい児・医療的ケア児等及びその家族への支援の充実

「障がい等への理解の促進にも取り組みます」としています。

<主な取り組み>

- ・2023年度に、支援ハンドブックを支援者にとってより活用しやすいものへとリニューアルしました。

【柱2】

つながりの希薄化など社会課題を踏まえた支援

主な取り組みの1つに「こども・若者ケアラー相談・支援窓口」を掲げています。

<主な取り組み>

- ・こども・若者ケアラー同士が、気軽に集えて交流・情報交換できる場「ふっのひろば」を2021年度から開催しています。

【柱3】

柱名を「こどもの“やってみたい”を支える、こどもを主体にしたまちづくり」に変更

- ・まちなかにほっこりできる場所がほしい
- ・そばにいてくれる人がほしい

- ・無料で利用でき、飲食もできて、友達と教え合いながら勉強する所がほしい
- ・放課後の校庭や図書室を自由に使いたい

- ・学校で決められたことだけでなく自分の好きなことをできる授業がほしい
- ・今後もアンケートを行い、幅広い年齢の意見を取り入れ、より良い市を目指してほしい

【柱3】

こどもの居場所づくりの推進

「子どもたちが放課後等に食事や学習、団らんなどを通して安心して過ごせる居場所づくりを進め」としています。

【柱3】

中高生世代が主体的に活躍できる場と居場所づくり

「中高生世代を中心として、こどもの意見を聴き、こどもの視点に立った『居たい』居場所づくりに子どもと一緒に取り組む」としています。

<主な取り組み>

- ・各区にユースステーション等の青少年施設を設けているほか、2023年度に、谷上駅前において中高生世代のためのフリースペースを開設しました。いずれも飲食しながらボードゲームなどで遊んだり、勉強したりすることができます。

【柱3】

こどもの意見を尊重し、その意見を表明しやすい社会環境づくり

「子どもにとって身近な施策を中心に、こどもの意見を取り入れた施策となるよう、意見が表明しやすい環境を整え」としています。

<主な取り組み>

- ・2024年度から、GIGA 端末を活用し、子どもが関わる新規施策等について意見を出してもらい、結果とともにフィードバックを掲載しているほか、学校に相談しにくいことや教育全般の意見や要望をインターネット上で投稿できる「お困りごとポスト」を設けています。

- ・ボール遊びできる公園がもっとほしい
- ・どんどん気温が上がり、夏に小学生などが公園で遊べないことがあるので、室内で運動できるようにしてほしい



【柱4】

地域とつながる多様なあそび場の充実

「天候に関係なく子どもが安全に思い切り遊ぶことができるあそび場の整備や、海・山などの自然に恵まれた神戸ならではの地域資源を活かした外遊びの環境づくりに取り組む」としています。

<主な取り組み>

- ・のびのびとボール遊びができる公園づくりを進めており、2024年度は20公園(2~4公園/区)に「ボール遊び・できること看板」の設置を目標としています。
- ・2022年度に、こべっこランド、磯上体育館、垂水体育館をリニューアルしました。

- ・中学生のころ通学路に歩道が無く危険だったので、登下校の安全確保をお願いしたい
- ・子どもが1人でも安全に自転車に乗れるように、道路を整備してほしい
- ・親子で出かける時間が増えるよう市の施設を無料にほしい



【柱4】

子どもと子育てにやさしい環境づくり

「子育て世帯が安心して外出できるよう、ユニバーサルデザインの視点に立った外出環境づくりをはじめ、子育て世帯にやさしい環境づくりを推進」としています。

<主な取り組み>

- ・高校生以下が無料で利用できる市立施設について、2024年度に新たに六甲山牧場などを追加し、計14施設に増やしました。

- ・市が市民に対してどのような取り組みをしているか伝わるよう可視化した方がよい
- ・地域の人々との関係が希薄になっているので、互いに支えられるような関係を構築するような取り組みを行うべきだと思う



【柱4】

「もっと、子育てしやすい街こうべ」の発信

「若い世代が子育てへの将来展望を描けるよう、神戸で子育てする魅力を発信するとともに、神戸のまち全体で、子どもや子育てにやさしい街になるよう啓発を進めていきます」としています。

<主な取り組み>

2022年度に、神戸がもっと子育てしやすく、子育てに笑顔があふれるよう、神戸全体がともに取り組んでいきたいという想いを込めて「こどもっと KOBE」ロゴ・ステートメントを作成し、2023年度に、読みものなどのコンテンツを充実するなど、子育て応援サイトをリニューアルしました(こどもっと KOBE)。